

建設業

回答企業58企業

概況

～業況判断D I 値 やや悪化で推移～

今期の業況判断D I 値は、前回調査比5.2ポイント低下の▲5.2とやや悪化し、前回調査予想値(8.6)を下回る結果となった。項目別では、売上・受注が1.7ポイント上昇の10.3、売上数量では5.1ポイント低下の3.5、利益では3.5ポイント上昇の▲8.6となった。2項目でやや改善となったが、利益がD I 値を引下げた結果となった。

資材価格高騰の影響から工事単価が過去最高になり、住宅新築については契約に至らないケースが多くなっている。

分野別の状況

～総合的業況はやや悪化で推移～

住宅新築については減少傾向であるが、リフォームは増加傾向。資材高騰により利益確保が課題となっている。

塗装工事業に於いては天候にも恵まれ業況安定推移した。

土木工事業は、橋梁補修工事や砂防整備工事などの公共工事が継続的にあり、入札による受注確保に努めている。

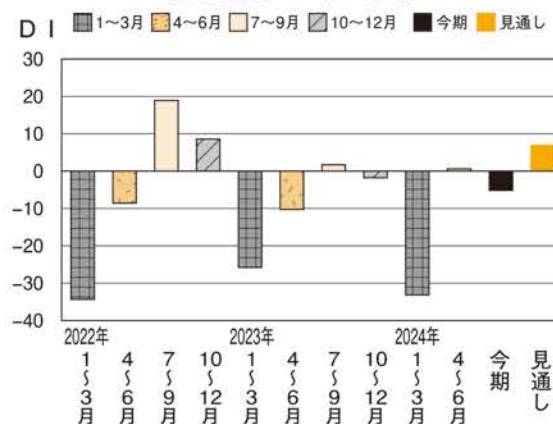
来期の見通し

～業況判断D I 値 改善の見通し～

来期の見通し業況判断D I 値は、今回調査比12.1ポイント上昇の6.9と改善の見通しである。項目別では、売上・受注で8.6ポイント低下の1.7、売上数量も6.9ポイント低下の▲3.4、利益では6.9ポイント上昇の▲1.7となった。

受注工事については業者間の格差あるも、確保されている様子。共通の問題点として資材高騰、人員不足があげられている。

業況判断D I 値の推移



製造業

回答企業32企業

概況

～業況判断D I 値 悪化で推移～

今期の業況判断D I 値は、前回調査比18.7ポイント低下の▲28.1と悪化し、前回調査予想値(▲18.8)も下回る結果となった。項目別では、売上・受注で15.7ポイント低下の▲6.3、売上数量も12.5ポイント低下の▲6.3、利益でも21.9ポイント低下の▲12.5と全ての項目で悪化となった。

食品製造業では、原材料価格高騰による販売価格転嫁が販売数量減少に結びつき厳しい業況となった。

分野別の状況

～総合的業況は悪化で推移～

衣料縫製業では、夏季期間はスーツ需要が落ち込む時期であり総体的に売上減少。原材料高騰もあり業況は低調に推移。

山菜の食品加工業に於いては、熊被害により原材料の仕入れに苦戦し、売上減少の一因となった。

電気機器関連では猛暑の影響等受けエアコン設置工事などによる、電気ケーブル等の受注が増加し好調に推移した。

来期の見通し

～業況判断D I 値 改善の見通し～

来期の見通し業況判断D I 値は、今回調査比18.7ポイント上昇の▲9.4と改善の見通しである。項目別では、売上・受注では横ばいの▲6.3、売上数量でも横ばいの▲6.3、利益では6.2ポイント上昇の▲6.3となった。

製造業では季節要因から食品関連を中心にやや改善を見込んでいる。

業況判断D I 値の推移

